

第2回 土岐市総合教育会議 議事録

1 開催日時・場所

平成28年10月25日（火）午後3時30分から
土岐市役所 3階 大会議室

2 次第

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 教育委員長あいさつ
4. 協議・調整事項
(1)これからの学校教育について（コミュニティ・スクール）
5. その他
6. 閉会

3 資料

コミュニティ・スクールって何？！（抜粋）

4 出席者

土岐市長	加藤 靖也
教育委員会	教育委員長 加藤 悟
	教育委員 齋木 寛治
	教育委員 安藤 浩市
	教育委員 伊藤 知恵子
	教育長 山田 恭正

提案者	岐阜小学校運営協議会	会長	藤澤 眞一様
	岐阜小学校運営協議会	委員	青山 朋宏様
	岐阜小学校	校長	杉原 和 様

（教育委員会事務局）

事務局長	小林 京子
教育次長兼学校教育課長	本多 直也
庶務課長	松原 裕一

（市長事務部局）

総務部長	加藤 淳司
------	-------

総合政策課長	林 洋昭
総合政策課主幹兼課長補佐	辻ノ上辰彦
総合政策課政策統計係長	柴田 貴紀
総合政策課	水野 慎矢

5 傍聴者

9名

6 議事進行の記録

次ページ以降に記載

◆議事進行の記録

《開会 午後３時３０分》

○司会（林総合政策課長）

定刻になりましたので、ただいまより平成２８年度第２回土岐市総合教育会議を開催いたします。

教育委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、教育委員会定例会に引き続きご出席いただき、誠にありがとうございます。本日の司会進行を務めさせていただきます総合政策課長の林でございます。よろしくお願いいたします。

今年度第２回目の土岐市総合教育会議となります。土岐市総合教育会議運営要綱に従いまして、会議を進めさせていただきます。よって、この会議の傍聴につきましては、土岐市総合教育会議運営要綱第５条第２項の規定に従い、土岐市教育委員会会議規則に基づいて実施いたします。

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。

はじめに、市長よりごあいさつ申し上げます。

○市長

皆さん、こんにちは。第２回目となります総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。３月頃に文部科学省が総合教育会議のアンケート結果を公表しておりまして、まだ１回も開催していない所が１０％程度ありました。大綱の策定もまだ進んでいない所も多いということでございます。当市の場合は、１回目の時に大綱を策定させていただきました。ということで、順調に進んでいる市町村においては、この会議の必要もないということでございますが、やはり今まで教育委員の皆さんと市長部局が、なかなかお会いする機会がなかったが、このように会議を通していろいろな意見を交わして、今後の教育行政に役立てていきたいと思っております。それから、今日は岐阜市の方から遠路遙々お越しいただきありがとうございます。どんな話が聞けるのか楽しみにしておりますので、よろしくお願いいたします。また、今日はたくさんの方に傍聴していただきありがとうございます。以上でございます。

○司会（林総合政策課長）

ありがとうございました。それでは、続きまして教育委員長の加藤様からごあいさつをいただきます。

○加藤教育委員長

あらためまして、こんにちは。教育委員長として本日がほぼ初仕事でございます。よろしくお願いいたします。土岐市教育委員会は、最近になりまして清流駅伝で優勝、あるいは東濃総体から引き続いているスポーツ関係の輝かしい成績をはじめ、他にも濃南の学校が受賞するなどありまして、少々上げ潮でございます。新しい委員長で失速しないように、委員一

同力を合わせて盛り上げていきたいと思っています。今日は、議題として、これからの学校教育ということになっている。国のプランの中で、小学校における英語教育とコミュニティ・スクールの問題というのは、どうしてもやらないといけない段階に来ていると思う。先日、私が行ってきた教育委員の研修においても待ったなしのレベルの話でした。今日は、岐阜の方から参考になる講義がいただけるということで楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

○司会（林総合政策課長）

ありがとうございました。

それでは、続きましてお手元の次第4「協議・調整事項」にうつります。

市長事務部局と教育委員会事務局で事前に協議・調整事項について調整いたしました結果、地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るための施策について、次第にごさいますように、「これからの学校教育について」ということで、今回はコミュニティ・スクールをテーマに意見交換をしていただくことといたしました。

なお、本日は、コミュニティ・スクールに関して先進的な取り組みされております岐阜市内にあります岐阜小学校から運営協議会会長であられる藤澤様と同協議会委員の青山様並びに岐阜小学校校長の杉原様にお越しいただいておりますので、後ほど岐阜小学校におけるコミュニティ・スクールの取り組みの状況を伺いながら、意見交換をしたいと考えております。

それでは、コミュニティ・スクールの概要について、教育委員会事務局から説明をお願いします。

○教育委員会事務局（本多教育次長）

それでは、コミュニティ・スクールの概要をご説明させていただきます。

お手元に「コミュニティ・スクールって何?！」という文部科学省から本年7月に出された資料の抜粋を配布いたしました。

資料を開いていただきますとコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について整理がしてあります。この制度が生まれてきた背景につきましては、上段に記載のとおり、地域社会のつながりや支え合いの希薄化、少子高齢化、子どもたちを取り巻く環境や課題の複雑化や困難化などに対応するために、社会総掛かりでの教育が必要で、その解決策としての地域とともにある学校づくり、即ちコミュニティ・スクールの制度が考え出されております。法的整備もなされ、中段に小さな字で記載がありますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が平成16年に改正され、その第47条にその規程が定められているところでございます。右ページをご覧ください。そうしたコミュニティ・スクールを導入した場合の3つのメリットが整理されております。そして、その下段に子どもにとっては、学びや体験が充実すること、保護者にとっては、学校や地域に対する理解が深まること、地域にとっては、学校を中心とした地域ネットワークが形成されることなど、コミュニティ・スクールの魅力が整理されている。資料の裏面については、全国の学校がどうしてコミュニティ・スクールに取り組んでいるのかを、ざっくりとですが5つの視点から述べています。教育委員長から

先ほどご紹介いただきましたが、昨年12月末に行われた国の中央教育審議会では、すべての公立学校がコミュニティ・スクールを目指すべきで、教育委員会が積極的に設置の推進に努めていくような制度的位置づけの見直しを検討すべきとの提言がなされております。現在、全国では年々取り組みの学校が増加してきており、約9%の学校で取り組みが進んでいます。岐阜県内におきましては、小学校で約20%、中学校では約15%の学校が取り組んでいます。近隣市でも検討が始まり、今後さらに増加するものと考えています。先ほど紹介のありました岐阜小学校につきましては、学校の統廃合を契機にコミュニティ・スクールの取り組みが始まったと聞いております。これより、その実際についてご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○司会（林総合政策課長）

ありがとうございました。それでは、説明をよろしくお願いします。

○岐阜小学校運営協議会（藤澤会長）

こんにちは。この度はお声掛けいただき、ありがとうございます。今、お話がございましたように、平成20年に学校の統合と同時にコミュニティ・スクールに入りました。岐阜市内には50地区に47小学校ありますが、以前は地区毎に小学校がありました。その中の、金華・京町というのが平成20年に統合し、同時にコミュニティ・スクールに入ったということでございます。当初、岐阜市内で初めて、多治見市の市之倉に次いで県下で2番目ということでありました。そういった関係もあり、運営協議会の発足で会長には、学識経験者をお呼びした方がいいだろうということで、最初の2年間は岐阜経済大学の先生、次の4年間は岐阜大学の先生に会長を委嘱して進めてきたが、そろそろ地元でやらないといかんということで、それから私が3年目となりますが会長を勤めさせて頂いている。こういう場所でプレゼンをするのが初めてでありますので、ドキドキしておりますが、私たちが歩んで来た実態をこれからご紹介申し上げ、参考になるか分かりませんが、油になっていただければありがたいと思っている。よろしくお願いします。

○岐阜小学校運営協議会（青山委員）

それでは発表をさせていただきます。青山と申します。普段は呉服屋をやっております。今日も午前中は販売をしていました。運営協議会の委員として、このような場でプレゼンをする係でございます。よろしくお願いします。それでは、早速発表をさせていただきます。まず学校の紹介からさせていただきます。

【※以後、パワーポイントによる説明】

岐阜市立岐阜小学校は児童数342名です。岐阜小学校の校章です。融和をテーマに地域のつながりを大切に、保護者・学校・地域の人々みんなで、子どもたちを温かくつつみこむような学校であることをイメージしています。岐阜小学校の校区です。城下町としての歴史と文化を、まず歴史の街金華と官公庁など市民生活を支える施設が集中する司の街京町の2地区で構成されています。元々それぞれの地区に金華小学校と京町小学校がありましたが、

児童減少のために統合されることになり、平成20年度に岐阜小学校が誕生しました。平成22年4月に、今の小学校が完成し、現在の環境となっております。金華小学校に岐阜小学校が建てられ、京町小学校には岐阜中央中学校が建てられました。岐阜小学校は開校と同時にコミュニティ・スクールに指定されています。教室の配置図です。メディアセンター、図書館、コミュニティ・ルーム、特別教室は、地域の人にも身近に開かれた場所となるよう、すべて1階に配置されている。また、コミュニティ・ルームという部屋が作られ、自由に地域の人や保護者が出入りできるようになっており、そこがコミュニティの拠点となっている。岐阜小学校の教育目標とめざす子どもの姿です。岐阜市学校教育指針に沿って、教育目標を「心豊かで 自ら求め 学び合う 岐阜小の子」としています。また、めざす子どもの姿を「すすんで なかよく きたえる」としています。

ここからはコミュニティの話になっていきますが、子どもたちの将来として社会情勢ですが、2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は大学卒業時に今はない職業に就くという研究がありました。また、今後10年から20年程度で半数近くの仕事が自動化される可能性が高いという予測もあります。これらのことを考えると、これから子どもたちに必要なことは、創造性や創造力、人間にしかできない力が必要になってくるのではないかと考えています。そのためには、覚えるから考えるへの質的変換が必要であると考えます。そのためには、子どもたちにたくさんの経験やいろいろなものを見させるということが大切ではないかと思う。そのためには、地域の力が必要になってくると考えております。またもう一方で、地域の願いとして、ふるさとに誇りと愛着を持ち、地域社会の一員として育って将来的に地域を担う子どもたちを育成して欲しいという願いがある。

これらのことを考え、岐阜小学校では、ふるさと学習を基盤とし、学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進を行っています。具体的に、ふるさと大好きを合言葉として、子どもたちが自信と誇りを持って地域の一員として主体的にかかわる姿をめざしています。ふるさと大好きを学校の合言葉としたことで、学校・家庭・地域・子どもたちが、同じ目標に向かって取り組むことができる。この後紹介しますコミュニティ・スクールの各専門部会が行う具体的な活動の方向が一つに定まった、地域の方がコミュニティスクールの狙いや役割を理解する上で、大いに役立ち連携がよりスムーズになったという効果がありました。ふるさと大好きを合言葉としたことで、学校・家庭・地域・子どもたちが一体感をもって活動ができるようになりました。

それでは、具体的に岐阜小コミュニティの組織を紹介させていただきます。

この組織は、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てていくことを目的としています。中心に学校運営協議会を置き、専門組織として、「学び部」「安全・安心部」「地域行事部」を設置しました。それを支えていただく人たちを岐阜小コミュニティ・サポーターと呼びます。学生ボランティア、地域保護者ボランティア、地元企業などに登録していただき岐阜小を支えてもらっています。学校運営協議会と専門部会は、地域教育推進コーディネーターが支えています。

それでは、具体的に一つ一つの組織を紹介させていただきます。

まず、中心となる学校運営協議会です。学校運営協議会では、学校方針、教育課程の編成、

施設の管理や整備等についての協議、地域住民の理解や協力、参画の推進、定期的な学校に関する状況の点検と評価を行います。毎年、第1回運営協議会では、校長先生より岐阜小学校の学校運営方針が発表され、学校運営協議会全体でそれを共有して一年間の活動をしていきます。

次に学び部の紹介です。学び部では、ふるさと学習の推進、学習支援ボランティアの依頼とその人材の発掘、読み聞かせ、サマースクール、放課後スクール、土曜日等の教育活動の支援、教科教育、道徳教育、総合的な学習の時間等における学習環境の整備、地域住民の積極的な参画の推進等を行うことを目的としています。学習支援ボランティアは、国語、社会、図工、家庭科、道徳、英語、総合の学習など、さまざまな教科に渡ります。現在、学習支援ボランティアには77名が登録されています。読み聞かせは月に1回、朝活動の時間に全学年全クラスで行っています。放課後スクールでは、放課後の時間を利用し、遊びや学びの場を提供しています。毎年夏休みに行われるサマースクールでは、学校で学んだことをさらに発展させることを主な目的として、1時間半から2時間半の体験型授業を行います。これも、講師には地域の方を招いて授業をしてもらっています。ゲストティーチャーが、子どもたちに与える効果です。思いや課題を持って活動している人に接し、取り組みへの思いを感じ、専門性に触れる。さまざまな年齢や職業の人たちとともに学ぶ。これらは、子どもたちの学びをより広く、より豊かにします。また、ゲストティーチャーの役割は、低学年では教え主体、中学年では主体的な学びに情操する、高学年では共に学び合うという風になっています。ゲストティーチャーの意識として、学校をサポートするから共に学ぶという意識の変化が段々と出てきていると感じています。ゲストティーチャーにとっても学校が生涯学習の場になってきているのではないかと感じています。地域の人と関わり、共に学ぶ機会を増やすことで、道徳教育、キャリア教育にも効果があります。例えば、2年生のまち探検では、まち探検をする中で、お店の人に聞く態度が良くないということで怒られる子どもたちがありました。先生は、子どもたちのことを考えて怒りますが、地域の方は腹が立って怒ります。実生活に、現実的な生活に根差した道徳教育が身になっているのではないかと感じています。また、キャリア教育という点でも、地域の人に、地域のお店に職業体験に行く訳ですので、例えば、その時だけに行く職業体験とは違って、その人の生活もこれから見る訳ですし、今まで見たことがある、これからも見ていくであろうという人の所へ行って職業体験をするため、職業を通しての人生観や生きる力につながるような人生観を知らず知らずのうちに身に付けていくのではないかと感じています。

次に安心・安全部をご紹介します。安全・安心部では、登下校及び緊急災害時における児童の安全・安心に関する活動の推進と情報の発信等を行うことを目的としています。市の職員、県の職員、警察の方と一緒にまちを回って、危険個所の確認や改善を要望しました。また、道路交通危険個所マークとは、子どもたちと一緒に作成しています。下校引率では、にっこり見守り隊を組織して1年生を見守ります。現在の登録者数は85名に、それに1年生の保護者が加わります。安全・安心部所属の消防団や水防団、交通安全協会の方の立会いの下、自転車教室、トラックの内輪差を知る安全教室、避難訓練、地域防災学習が行われている。専門的な立場での助言は、大変役に立ちます。また、災害時における

地域の次世代リーダーの育成という面でも、意味のある活動だと思っています。

次に地域行事部をご紹介させていただきます。地域行事部では、児童が参加する地域行事等の企画・調整と情報発信等を行うことを目的としています。住んでいる地域のすばらしさを伝え、大人と子ども、地域に住む大人同士の信頼関係を築くことを目的とした「ふるさとふれあいウォーク」というのをやっている。これは、その日一日がコミュニティ・スクールの最大のイベント「ふるさとふれあいフェスタ」というのがありますが、先週開催されたが、1時間ゲストティーチャーが授業を行い、地域を回って即席家族というのをくじ引きでつくって、地域を知らながら信頼関係を築くというイベントを行いました。このイベントに関しては、この後、動画でご紹介させていただきます。

これは、6年生の子どもたちにとったアンケートです。地域行事への参加、地域や社会で起こっている問題や出来事の発信、総合的な学習の時間は普段の生活や社会に出た時役に立つという認識、それぞれの質問に対して、高い比率で「はい」という回答を得ています。地域に関心を持ち、地域の様々な活動に参画していく子どもたちの育成に効果があると考えています。また、この時と同じアンケートの中で、将来の夢や目標を持っているか？との問いに対し、93%の子どもが「はい」と答えている。これも普段から大人と接して、大人の背中を見ることで、それが少しでもそういうことに関係しているのではないかと思う。

コミュニティ・スクールの今後の課題です。活動を開花し、発展させるために、かかわる人が変わっても、願いを求めるものを伝え、共に歩むことのできる組織を継承していく。どうしても学校ですので、親や保護者が変わっていきますし先生方も変わっていく。地域のサポーターの方も段々高齢化していくという問題もあって、継続していくことがなかなか難しい。例えば、PTAとか保護者の立場としては、学校を卒業した子どもの親も、そのままコミュニティに残って活動していくという形に働きかけています。僕も子どもが中3で、小学校にはいませんし、前の会長も学校運営協議会に参加していますし、僕のための会長も参加しています。一緒にやってきた仲間たちも、専門部会でそれぞれ活躍しています。そうやって、継続性を大切にしていきたいと考えています。

地域への更なる周知ということで、岐阜小コミュニティだより、ふるさと大好きカレンダーを校区の全世帯約3500世帯に配布しています。

学校と保護者、地域の関係です。従来の学校と保護者、地域の関係は図のようなものであったのではないかと思います。学校の要請に対して、それぞれ保護者や地域がそれを支援する。コミュニティ・スクールでは、子どもたちを中心にして地域住民、教職員、保護者それぞれがパートナーとして連携しながらそれぞれできることを最大限努力する。そして、コミュニティ・スクールは学校の仕事をそれぞれに分けるのではなく、それぞれができることを最大限行うというのがコミュニティ・スクールであると思います。もちろん、岐阜小学校を卒業した中学生たちもその地域住民の一員です。岐阜小学校では、今、この段階であると考えています。今後は、一方向ではなく、双方向の関係であるということを認識していくことが大切です。実は、子どもたちにしてあげているという発想を持つんですが、それによって、保護者であり、地域住民であり、教職員が逆に育てられるという、お互い育ち合うという関係になりつつあると考えています。そうして育った地域がさらにまたその子どもたちを育て

る。そういう関係を徐々につくっていかねばならないと思っています。

岐阜小学校が地域コミュニティの核として、かかわるすべての人が成長する場所、地域の生涯学習の場にしていきたいと考えています。そうやって、地域に子どもたちが育ち、今の小学校の姿が、何十年後かに地域の姿になるわけですので、それがいずれ地域創生へとつながっていくと考えています。これからも岐阜小学校をどんどん進化していきたいと思っていますので、何かありましたら、いろいろご指導いただけると有難い。

最後になりますが、先ほど紹介した「ふるさとふれあいフェスタ」の一日を動画にしたものを流しますので、ご覧ください。この映像を作ったのは何年か前にPTAの実践発表をした時の映像ですので、少し視点が違うかもしれませんが、ご了承ください。

【※動画を視聴】

ご清聴ありがとうございました。

○司会（林総合政策課長）

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明について意見交換としたいと思いますが、何かご質問やご意見等はございますでしょうか。

○加藤教育委員長

1点質問をさせていただきます。私ども土岐市におきましても、個々の事業として地域とのかかわりというのは、それなりにいろいろな事業をやっているし、個別には地域とかかわってきているところであります。それが、今回のコミュニティ・スクールということで、組織的に行えるようにするところが目的のかなと思うわけですが、この運営協議会というのは、実際の所、事務局はどういった形で事務運営が行われているのか。学校とは別で行われているのか。

○岐阜小学校運営協議会（藤澤会長）

今は教頭先生が中心となり、他は各専門部会からその都度集まって協働して行うという状況で、常時的な事務局としては教頭先生にお願いしています。

○加藤教育委員長

やはり学校が中心となって、そこから繋がっていくという形態か。

○岐阜小学校運営協議会（青山委員）

一応事務局は教頭先生であるが、実質は専門部会がそれぞれ活動するので、独自にやりたいことをやっており、先ほど紹介したサマースクール等のイベントは学校が関与していない訳ではないが、中心はコミュニティの専門組織が行う。予算やお金を管理するのは学校の教頭先生にお願いしているが、実質的な活動は個々の専門部会が行っています。

○岐阜小学校（杉原校長）

補足をしてよろしいでしょうか。

今、青山委員の話にもありましたように、第1回目の学校運営協議会で私が運営方針の話をしますと、今年校長はこういうことを考えていると言って3部会の長とコーディネーターが、私の考えを代わりに専門部会で話をし、こういうことをしてみようと自発的に動きます。会議の段取りを教頭に連絡し、何時に会議を開催したいけれどといって動く。私たちは、誰がどこで何を読んでいるのかはまったく把握していないし、サマースクールや地域の老舗の若旦那がそばを作ってくれたり、一緒に菓子を作らせてくださったりと、私たちはほとんど関知せず、一緒に参加するのみといった動きであります。

○岐阜小学校運営協議会（藤澤会長）

それぞれの仕事は各専門部会で行いますが、市から50万円の予算を頂いており、それを管理しながら、各専門部会から集まった人で組織する事業調整をする委員会組織があります。事務局は教頭先生にお願いしているが、技術的な仕事は専門部会で行っている。

○岐阜小学校運営協議会（青山委員）

この図で言うと、まるで上から下へ降りていくようですが、実質は下から上に上がってくる感じで活動をしている。

○山田教育長

校長先生に続きで申し訳ないですが、当市では組織的な制度として構築できていないが、実際に運営協議会が動くことにおいて、校長先生から見て岐阜小学校の教育というのは、どのように変わってきているのか。組織が無いのと比べて、あることによってどのような教育的効果があるのか。どのような感触をお持ちか。

○岐阜小学校（杉原校長）

一つのエピソードがありますが、去年、一昨年と爆破予告がありました。私も記者会見をさせていただきましたが、その時に、地域や保護者の方は恐らく「学校は何をやっているんだ！どうしているんだ！」となって学校に電話がかかってくるのが普通の学校だと思いますが、1本もかかってこなかった。恐らく、学校運営協議会で吸収してくださったのかもしれないが、メールも電話も一切なかった。地域が学校を信頼している、そこでバタバタしない。恐らく、この子たちとこの先生と岐阜小がそのまま乗り切っていくだろうという、任せておっただけにしているという信頼関係が一つ、それから子どもたちにとってみると、本気の大人を見る訳ですので、授業の時に立っていただくんですが、今日はいささか緊張気味ですが、子どもの時はもっと緊張して準備をしていらっしゃる。こうした本気を子どもたちが間近に感じて、その大人の本気はやっぱり子どもに伝わるなあ、本気を出した大人の人は、うちの子どもたちをかわいがってくれる。特別な子どもたちと思ってくれる。単に岐阜小ファンが地域にたくさんいる。そういう関係の中で、子どもたちは穏やかに一昔前の昭和の子どもた

ちに出会ったような感覚です。人当たりのやわらかい素直なやさしい子が、このような大人の
人たちののおかげで育っている環境です。

○安藤教育委員

学校運営協議会のメンバー構成はどのような方がなされているのか。京都に研修に行った
時に、最初は男ばかりのメンバー構成となってしまう、人がなかなか集まりにくいとか、何
かの事業をするにしても理解が得にくいという部分があり、女性を入れることによって、そ
れがかなりスムーズにいくようになったという話を聞いたが、岐阜小のメンバー構成や男女
の構成比はどのようなかお聞かせいただきたい。

○岐阜小学校運営協議会（藤澤会長）

構成メンバーは22名で、地域の代表、保護者の代表、小中学校の先生である。地域代表
の中に女性は1名であり、保護者代表は半数という状況。地域の代表というのは、自治会の
代表や民生児童委員の代表、それからコーディネーターで、地域のことによく精通して学校
行事等の調整を図るとか、各専門部会のリーダーシップをとれる人たちである。保護者の代
表としては、PTAの正副会長や青山さんのようなPTAのOBの方である。

○安藤教育委員

ありがとうございます。この事業に参画をする中で、意外と年配の方は理解があるが、若
い世代の保護者や住民の方に興味を持ってもらい一緒に巻き込んでいくことがなかなか難し
いと感じるが、岐阜小さんの場合はどのような状況なのか。

○岐阜小学校運営協議会（青山委員）

難しいと感じたことがないので、何とも言えない。

○安藤教育委員

逆に若い保護者の方もいろいろな形の中で一緒になって活動できているのか。

○岐阜小学校運営協議会（青山委員）

自分が岐阜小学校でPTA会長をしていた時は、クラス役員は全員立候補でしたし、もち
ろん執行部の役員も全員立候補で決まっていた。じゃんけんに負けて役をやれなかった子が、
余ってしまってどうしてくれるのかと言って、新しい委員会を作ってそこに入れたぐらいで
あった。普段の付き合いが大きいと感じる。急に何かしたからといって、参加してくれるわ
けではない。例えば、普段の近所付き合いや一緒に飲みに行ったりなど、そんな普段のことが
繋がっていくのではないかと思う。それは恐らく、子ども会や自治会といった地域のお付
き合いから、知らず知らずのうちに順番に出来ていると感じる。若い人の参画が少ないとい
う感じはあまりありません。

○安藤教育委員

ボランティアの授業について、学校との連携や調整があると思うが、土・日曜日なのか、それとも平日に実施されているのか。

○岐阜小学校運営協議会（青山委員）

平日もあります。僕はいつも言うのですが、先生とものすごく打合せをして行くくらいなら先生一人がやればいいのであって、そうではなくて、パッと来てやるぐらいの方が、子どもたちにとっては刺激的であり、その方が良いと感じる。僕は打合せゼロです。気楽に入ってきて来られるようにした方が良いと思う。なるべく地域の方に負担をかけないような形で授業をやって、その中で、子どもがその人の生きる姿を学んで行けば良いと考えている。

○岐阜小学校（杉原校長）

それについて、教員にはそんなに打合せはしなくても良いと言っている。きっと一生懸命やったださる。後を処理するのはプロがやる。きっと、綿密にやっても言いたいことが山程あるので、時間が押す。そこを耐える先生と子どもたちがすごい。そうするとますますファンが増える。「よく聞いてくれたよ、校長先生また来てもいい」、「はいどうぞ!」というやりとりをする。45分できちっと何とかしようというのは学校で難しい業だと思っていますので、おもいっきり語っていただきたい、そういう時間にしていきたい。

○岐阜小学校運営協議会（藤澤会長）

最近、若い人の話に出るのは、高齢者の問題があるわけです。京町の高齢化率が42%で、金華と京町を併せて39%です。42%は岐阜市内でトップの数値です。人口が減り、高齢化率が高くなっているのも非常に困っているが、高齢化という問題と、運営していくのに大事なことは、いかに地域が参画をして協力をして盛り上げていくかということである。例えば、地域のまちづくりの先頭は自治会長であり、その自治会長の1/3が毎年交代するという現状です。今、専門部会にしても運営協議会にしても、役員の高齢化率が高く、これからどうやって事業を進め、どう皆さんの参加を求めていくかということについて非常に大きな課題である。それから、コミュニティ・スクールというのを、地域の皆さんに知ってもらって参画してもらうことが大切であるため、いかに皆さんの所へ情報を伝えていくのかというのも大きな課題だと思う。一番大事なのは、ゲストティーチャーとかいろいろなことがありますけれど、人材をいかに発掘していくのか、ゲストティーチャーも高齢化しているので、新たな人材を探していかなければならない。

○伊藤教育委員

先程、先生方の負担をできるだけ減らすようにしてみえるとのことですが、負担よりもメリットの方が大きいと現場の先生は考えておられるのか。もともと、先生はとても忙しいので、さらにこういう行事が入り、多少の打合せが必要となると、負担と思っているのかそれ以上のメリットを先生個人も感じてみえるのか、その辺りの実態はどのようなか。

○岐阜小学校（杉原校長）

岐阜市全体がコミュニティ・スクールになって、岐阜小のような古い学校とつい最近なった所と教師の負担感の度合いというのは違う。私どもの職員はそんなに感じていないが、立ち上げ当初の学校は負担感がある。今までなかったものが、入り込んでくるというのは、私たちにとっても精神的に負担がかかる。慣れっ子になっているというか、来てもらうのがある意味当たり前というのを教員も思っているので、そういう点では、どんどん負担感が減っていく方向で、岐阜市全体が統計を取った時にそのような結果であった。最初は、軌道に乗るまでの当時の苦労は、ここに見える運営協議会のお二人がたくさん経験をされてらっしゃいますが、今となっては教員の負担はさほどないと思っている。

○伊藤教育委員

それから、もう一つ、自分からやりたいと言ってくれる地域の方が、自主的に立候補して役員をやらせて欲しいというような動きはあるのか。それとも、そういう制度自体をつくってみえないのか。立候補制であるのか、自分たちがお願いをしにいくのか、その辺りはどうなっていますか。

○岐阜小学校運営協議会（青山委員）

立候補される方は今のところお見えにならない。ただ、あの子がやりたそうやでということで、声を掛けることはあります。その辺りは適材適所と言いますが、充て職ではなく、例えば、PTAから運営協議会に出ているのは、PTAの本部役員ではない無役の人が出ています。

○岐阜小学校運営協議会（藤澤会長）

私どもまちづくり協議会を地域につくっているんですけども、学校で活躍していただける人材発掘＝（イコール）地域のまちづくり活動に連動している。ですから、そういう面では、非常に学校と地域が一体化になって、学校の人を探す、その人がまちづくりをやっているという形が、最近スムーズにできているし、多くの人を引っ張り出すことができている。

○司会（林総合政策課長）

その他、よろしかったでしょうか。

○安藤教育委員

運営協議会を維持させることが、一番難しいことであると思うが、岐阜小さんも10年続けてきた中で、教頭先生もある程度の年数で変わり、民間の方も変わるとは思いますが、岐阜小さんの場合は、この運営協議会のメンバーで、当初から入られている方はどのくらいいらっしゃいますか。

○岐阜小学校運営協議会（藤澤会長）

現在、4、5人だと思う。

○安藤教育委員

ずっと続けて見える方がいらっしゃるというのが強いと感じる。人が変わってしまうと継続していくことが難しくなってしまう。

○岐阜小学校運営協議会（藤澤会長）

そういう意味では、特に保護者代表については、OBを入れている。

○司会（林総合政策課長）

大変活発な意見交換ありがとうございました。それでは、これからの土岐市の取り組みの予定について教育委員会事務局から説明をお願いします。

○教育委員会事務局（本多教育次長）

今ほどご説明をいただきましたように、コミュニティ・スクールにつきましては、全く新しい制度を構築するということではなく、今土岐市内でも各学校で名人教室であるとか、保護者による読み聞かせ、昔の話ということでお年寄りの方に来ていただいて子どもたちに語っていただく機会も設けて、そういった地域の方のお力添えを得ながら学校運営をしている所です。そうした取り組みを、今話があった通り、子どもを中心とした組織に再編成（整理）することによって、コミュニティ・スクールの趣旨に合った教育活動が展開できるのではないかと考えています。教育委員会事務局としまして、コミュニティ・スクールの導入に向けて、次年度からモデル的に小学校1つ、中学校1つ程度の指定をさせていただきながら、順次拡大を図っていきたくと計画をしている所でございます。今後また、導入が進んでいく中で、運営協議にかかわる諸問題や諸課題が出てくると思いますが、関係の皆様には忌憚のないご意見をいただきながら、より良い教育活動を進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。以上でございます。

○司会（林総合政策課長）

ありがとうございました。

今後も、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育課題をあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、この会議にて協議や調整を行って参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

遠路お越しいただきました藤澤様、青山様、杉原様、どうもありがとうございました。

それでは続きまして、次第5「その他」についてですが、何かございますでしょうか。

特に無いようですので、事務局から2点報告をいたします。

○事務局

それでは、2点ご報告をさせていただきます。

今年度6月に開催いたしました第1回総合教育会議において協議いただいた「土岐市いじめ防止基本方針」につきましては、会議での意見等を受けまして、市長部局と教育委員会の事務局で調整を行いました。基本方針の中身につきましては、児童生徒に対するいじめを未然に防ぐための学校や教育関係者の取り組みが主ではありますが、いじめ防止をするためには学校だけでなく、家庭あるいは地域社会が連携することが重要であり、この基本方針には、市長の役割も明記されていることから、市としても関わりをもって取り組んでいく意思を示すためにも、土岐市と土岐市教育委員会との連名とさせていただきましたことをご報告いたします。

またもう一点、次回の総合教育会議についてでございます。今年度は2回を終了いたしました。次回は、来年度の開催を予定しております。ただし、緊急性のある問題が発生した場合などにつきましては、早急な対応をし随時開催することとなりますので、その際は、またご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

○司会（林総合政策課長）

その他、ご意見などございませんか。

それでは、これをもちまして、本日の会議は閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

《閉会 午後4時35分》